

解答

- 問一 ① オ ② イ
問二 わなにはまつて、団員をにせの道に誘導した」と。
問三 ウ
問四 本式なげんかを避けられそうだから。

- 問五 そのたい
問六 がき大將
問七 ウ

- 問一 自分を発見する場
問二 評価

- 問題は、そ
オ
親の過保護や干渉過多を避けて、生きていって必要な基本的なことを学ぶことができるのか?
ア
受け身
問七
問六
問五
問三

- ① ぞうきばやし ② きよそん ③ こうみょう ④ まか「せる」 ⑤ いじわるよ「く」

⑥ 標識 ⑦ 準備 ⑧ 慣習 ⑨ 裁「く」 ⑩ 耕「す」

解說

- 問二 本文のはじめに着目します。西吉倉海洋少年団の全員が手紙を読んでいるため、わなにひつかつて、山頂への道を間違え、にせの道に迷ったことを、みんなに知られたことがわかるので、これらの内容をわかりやすくまとめます。

問七 本文から、一郎と明がそれぞれに地域をまとめる良いライバル同士であり、お互に本式のけんかを避け、行動を楽しみにしている様子がわかるので、選択肢ウが選べます。

- 問五
直前で「放つといて！」と言われても、放つておけないのが、親の側のどうしようもない気持ちであり、親の気持ちを尊重しすぎると、過保護や干渉過多を起こすことが述べられています。“ほどほどに放つておかれること”にすると、それぞれの問題点を避けることができるようになります。

問七
本文中盤にある「感じ、考え、自分なりの結論を探していく。そういう訓練がなされていったとき、人間の適応性が生まれてきます。」という記述から選択肢Aが選べます。

一

- 一

- 一